

令和4年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

超進化への道標～むらに笑顔と活力を取り戻す！～

○集団等の名称 株式会社 Mt.ファームわかとち（代表 細金 剛）

○所在地 新潟県小千谷市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

小千谷市は、新潟県のほぼ中央に位置する。若栃地区は、小千谷市南部の標高約200mの山間部にあり、過疎化・高齢化が進む中、地区内にある約38ha（400枚）の棚田を保全してきた。中越大震災により多くの家屋や農地が被害を受け、徐々に失われていくむらの活力を取り戻すため有志が集まり、平成18年に「わかとち未来会議」を発足した。

・むらづくり組織の概要

「わかとち未来会議」では、地域活性化アイデア実現のためコーディネーターを招聘し、ワークショップを2か月で25回開催。多くの住民が参加し意見を出し合い「わかとち未来デザイン・実践プラン」を策定し、グリーンツーリズム事業等を推進していった。震災からの復興が進むにつれ、まちづくりの方向性は次第に「地域経営の継続」へとシフトし、更なる進化のため、平成28年「(株)Mt.ファームわかとち」を設立。儲かる仕組みづくりや地域産業の創出に向け邁進している。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① 地域の高齢者等も収入が得られるよう地元住民が収穫する山菜や農産物を加工原料として買い上げ、加工品を販売。「若栃」ブランドとして統一感あるパッケージでブランド化し、ECサイトへの展開等の販売強化を図り、売上げを伸ばしている。
- ② 地元の魚沼産コシヒカリに付加価値をつけて販売するため、新たにレンジアップごはんを製造し販売するほか、ふるさと納税での取り扱いを開始。
- ③ 田植え・稲刈りを中心とした稲作作業の一部を受託し、集落の田んぼを次代へと繋ぐ活動として事業化し、高齢化による離農者の農地の受け皿となっている。ほ場の水管理や畦畔の除草等、地権者と協力しながら農地を管理している。
- ④ 都市部の若者をインターン生として受け入れる制度や、2年間の農村生活体験を通じ、自らが目指す農村でのライフスタイルの実現に取り組む仕組みを活用し、外部人材の力を取り入れ、地域の農地及び営農活動の維持を図っている。

(2) 生活・環境整備面

- ① 築160年の古民家を改修し、農家民宿を運営。地元食材を使った料理を「しゃべっちょ」な地元女性が提供し、人気を得ている。近隣の蔵を交流施設に改修し、地域内外の人々の憩いの場を提供している。
- ② JICAの海外研修生、中学生教育体験旅行や市内小学校の総合学習等を集落内農家で受け入れることで交流を創出し、交流人口の拡大に繋げている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、住民間の幾度も議論により策定したむらの未来図のもと、外部との交流を通じ地区の復興を遂げ、地域の営農活動が維持され集落の農地が守られている事例であり、今後も取組の継続が期待できる。震災をバネに外部人材の力を上手く取り入れ、復興後も地域経営の継続・向上へ進化を続ける本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。